

命誇緑

発行・連絡先

埼玉県議会 民主党・無所属の会 浦和区事務所（あさのめ事務所）

感動県政あさのめ新聞

07.10.21

Vol. 001



9月定例議会における一般質問  
一般質問にパネルを提示したケースは初めて。  
と上田知事が語る。(07.10.02)

挑戦する政治が  
埼玉県をつくる

埼玉県議会議員 浅野目 義英

「与党だ」「野党だ」との言葉を、今でも県議会ではしばしば耳にする。上田知事も、八月の再選直後に語っている。「議会は全て野党」。地方議会での完全認識錯誤のこの与野党論に一刻も早くおさらばしたい。私は今春駅頭などから「行政の独善、暴走を防ぐために議会は存在している。夕張では『議会こそA級戦犯』と言われていた。政策の対立軸をぜひ県議会につくり上げていただきたい」とお訴えした。

議会にとって一番必要なのは、行政の独走を許さない強い意志だ。そして政策形成能力だろう。

「県庁は早く地震防災のコントロールタワーとしての機能を固めよ」「光を失った教員 再び現場に立たせよ」「県債を売り込め、外資企業の県内進出にも直結する」「日伯交流一〇〇年 県も思いをはせ交流事業企画をしてはどうか」「浦和区岸町の県有地 いたもたやすく売却するな」などの一般質問を十月二日おこなった。挑戦する政治こそが埼玉県をつくりあげるとの気概は失わないつもりだ。現状か未来かの使命感を持ち、これからも改革意識に燃えていきたい。

（あさのめ・よしひで）

# 防災

## 埼玉県庁 地震防災の指揮所としての機能 早急に固めよ!

M7級地震が首都圏で30年以内に発生する可能性70%と予想されている。政府は18パターンの首都直下型地震を想定。被害のレベルをシミュレーションしている。埼玉県で死者がでるとされるものはうち8パターンもある。しかもHP上にこうコメントされている。

「荒川沿岸部は軟弱な地盤が広範囲に分布。地震動が地表で増幅されやすい。液状化発生しやすい。同程度の地震が他の地域で起きた場合に比べ大きな被害が想定」

県民の命と財産を守り抜くため地震対策を完全なものとする。こと論を待たない。しかし他の都道府県に比し対策にかなり差をつけられているのではないか。そもそも地震対策の県の真剣な意気込みが伝わっていない。

①県の顔といえる埼玉県庁（ムベ）のトップページには、多くの都道府県に見られる「防災・震災に関する情報」のようなバナーが貼られていない。普段でも一日当たり平均約1万6千件。年間約576万件ものアクセスがあるこのHPに、いったん危機となれば、安全情報を求め膨大なアクセスが殺到することは予想だにしない。バナーを貼る県民に防災情報の門戸を広げるべき。

②本庁舎は築55年、耐震強度は0.16。0.3未満で倒壊の可能性が高くなる。これで防災の中核機能果たせるのか。対策の指揮所であるはずの埼玉県庁本庁舎の耐震能力は著しく低いのではないか。

③本庁舎、第二庁舎、第三庁舎、これらをコネクトする「渡り廊下」三本の連結の耐震強度は調査してないのでは。データ不明のこの部分の耐震強度を明らかに。

④現状、防災行政無線室は第2庁舎8階、災害情報連絡室は同3階、庁議室は本庁舎2階。連絡調整の部屋がこれまた第2庁舎301会議室、警察消防自衛隊などとの連絡調整の部屋が302会議室。各々の部屋はあまりにも狭隘で劣悪。テクノロジとは縁遠く、ハイパフォーマンスとは言い難い。これで十分機能していくのだろうか。

⑤分散タコ足で、動線を考えると、連絡調整や情報収集に時間がかかり過ぎると予想される。加えて、第2庁舎の各部屋などは、内部のパーテーションで遮断された状態だ。

耐震性も充分な議会



（民主）の質問に答え、県の本庁舎は建て替えてから五十年以上が経過、震度6以上の地震では、〇・三未満だと危ないと言われる強度の指標で、〇・一六しかないという調査結果が出ている。各庁舎を結ぶ「渡り廊下」は

⑥静岡県庁を視察した。それに比べて埼玉県の施設は脆弱。例えば災害状況をスクリーンで共有できる設備さえない。災害対策本部に相応しい施設が必要ではないか。「コストが理由で建て替えはしない。補強が得」「災害対策本部を置く場所も今のところない」では、地震から県民の命と財産を守り抜く気概ないと県民に思われてしまうことを心配する。暫定的に議会棟にコントロールタワーである災害対策本部を置くしか方途がないような気がしている。

県庁舎は極めて脆弱の認識ある。議長をはじめ関係者からはじめの中、可能性を考えていく。だが、耐震診断はしてないという。予算上の制約などから建て替えは断念し、二〇一〇年度までに補強工事をしてしのべことになっている。ただ県の職員からも「補強工事では本間に大丈夫なのか」「どうせ将来は建て替えなければならぬやむを得ない」との声もある。庁舎のうち県議会の議食棟だけは一九八三年に完成し、耐震性に優れている。



▲埼玉県庁「連絡調整室」埼玉県庁「本庁舎と渡り廊下」  
▼静岡県庁「対策本部」

①県の顔といえる埼玉県庁（ムベ）のトップページには、多くの都道府県に見られる「防災・震災に関する情報」のようなバナーが貼られていない。普段でも一日当たり平均約1万6千件。年間約576万件ものアクセスがあるこのHPに、いったん危機となれば、安全情報を求め膨大なアクセスが殺到することは予想だにしない。バナーを貼る県民に防災情報の門戸を広げるべき。

②本庁舎は築55年、耐震強度は0.16。0.3未満で倒壊の可能性が高くなる。これで防災の中核機能果たせるのか。対策の指揮所であるはずの埼玉県庁本庁舎の耐震能力は著しく低いのではないか。

③本庁舎、第二庁舎、第三庁舎、これらをコネクトする「渡り廊下」三本の連結の耐震強度は調査してないのでは。データ不明のこの部分の耐震強度を明らかに。

④現状、防災行政無線室は第2庁舎8階、災害情報連絡室は同3階、庁議室は本庁舎2階。連絡調整の部屋がこれまた第2庁舎301会議室、警察消防自衛隊などとの連絡調整の部屋が302会議室。各々の部屋はあまりにも狭隘で劣悪。テクノロジとは縁遠く、ハイパフォーマンスとは言い難い。これで十分機能していくのだろうか。

⑤分散タコ足で、動線を考えると、連絡調整や情報収集に時間がかかり過ぎると予想される。加えて、第2庁舎の各部屋などは、内部のパーテーションで遮断された状態だ。

⑥静岡県庁を視察した。それに比べて埼玉県の施設は脆弱。例えば災害状況をスクリーンで共有できる設備さえない。災害対策本部に相応しい施設が必要ではないか。「コストが理由で建て替えはしない。補強が得」「災害対策本部を置く場所も今のところない」では、地震から県民の命と財産を守り抜く気概ないと県民に思われてしまうことを心配する。暫定的に議会棟にコントロールタワーである災害対策本部を置くしか方途がないような気がしている。

県庁舎は極めて脆弱の認識ある。議長をはじめ関係者からはじめの中、可能性を考えていく。だが、耐震診断はしてないという。予算上の制約などから建て替えは断念し、二〇一〇年度までに補強工事をしてしのべことになっている。ただ県の職員からも「補強工事では本間に大丈夫なのか」「どうせ将来は建て替えなければならぬやむを得ない」との声もある。庁舎のうち県議会の議食棟だけは一九八三年に完成し、耐震性に優れている。

日本経済新聞 07.10.03

### 震災時の県災害対策本部 議会棟に設置も検討 知事表明

首都直下地震対策として埼玉県の上田清司知事は、防災拠点としての県庁舎は、議会棟を

「災害対策本部を暫定的に議会棟に設置する」とも検討したいと表明した。防災拠点としての県庁舎は、議会棟を

「議会棟で臨時避難場所を確保したい」と述べた。

（民主）の質問に答え、県の本庁舎は建て替えてから五十年以上が経過、震度6以上の地震では、〇・三未満だと危ないと言われる強度の指標で、〇・一六しかないという調査結果が出ている。各庁舎を結ぶ「渡り廊下」は

**福祉教育**

**光を失った教師 再び現場に立たせよ**



もいる。とかく盲学校での勤務になりがち。普通校での門戸を広げられないのか。

人にとり光を失うということは筆舌に尽くしがたい苦難。私は青年会議所時代、アイマスクをつけ駅階段で昇降歩行体験をしたことがある。「こんなに苦勞をされているのか」と目が不自由な人の立場を初めて実感した。暗闇の中の不安と恐怖は強烈な印象として心に刻まれている。しかし、逆境はね返し不屈に挑戦を繰り返し、全盲のピアニスト、全盲のテノール歌手、全盲の弁護士、全盲のマラソンランナーなどの方々が様々な活躍されていることは議員各位も執行部各位も存じのはず。

全国視覚障害者教師の会によれば、全国で教壇に立つ視覚障害の先生は約60人

池野田義英氏

（民主党・無所属の会所属）

【池野田】失明して現在、県立盲学校で勤務する先生がいる。もともと盲学校の教員で、インストラクターと教師の両方の役割をこなしていた。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。



くらの力を失ったが、普通校で再び教壇に立つたいと希望を持っている。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。

**視覚障害者の教員採用は**

【池野田】失明して現在、県立盲学校で勤務する先生がいる。もともと盲学校の教員で、インストラクターと教師の両方の役割をこなしていた。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。盲学校では、先生だった。

埼玉新聞 07.10.03

**地方財政**

**海外投資家や外資による 県債購入対応せよ**

知事はよく「誰でもチャンスがある社会がいい社会」と述べている。福岡出身だから知事はダメ。女性だから副知事はダメとは私は聞かない。すべての人にチャンスがあるということだ。

【知野田】教育委員会にお願いすると、ややこしいことを受けたいという文化もゼロではない。すぐに対応したい。而倒くさがらず、多くの人たちにチャンスが与えられるようなこと、真剣に教育委員会に取り組んで欲しい。

海外投資家や外資系企業が、地方自治体が資金の調達のために発行している地方債の購入に向け、極めて意欲的に名乗りを上げている。彼らが、視線を熱く注いでいるのは、国が後押ししているのが一因。来年1月から海外投資家が保有する地方債の利子収入にかかっていた所得税や法人税は非課税になる。参入の動きは一気に加速するだろう。

【知野田】外国人投資家にとり埼玉県債が魅力的銘柄になるように努力したい。海外企業の誘致にもつながるという指摘、全くその通りと思っっている。



**浅野目義英**

昭和33年5月27日東京都生まれ。山形県米沢市育ち。4才の時埼玉県へ。浦和区大東在住。家族は妻 智子との間に一男一女。法政大学社会学部卒。小学校教師を経て。隣接の上尾市で市議4期(25才~41才)。37才で議長。衆議院議員 武正公一 政策秘書 平成19年 県議会議員当選。\*さいたま市浦和区で初の民主党県議。

**埼玉県議会**  
民主党・無所属の会所属(副政調会長)  
文教常任委員  
地方分権・行財政改革特別委員

**民主党埼玉県連**  
副幹事長、総務局長



県議会議員  
浅野日義英

# あさのめ 文化フォーラム へのお誘い



作家  
中島道子氏

埼玉県ゆかりの絵師「岩佐又兵衛」  
の人生を知ると共に、

国宝「山中常盤絵巻」の映像を鑑賞しましょう。

◆日時：平成19年11月21日(水)18時より ◆場所：浦和東武ホテル2階  
TEL.048-825-4711

◆講師：作家 中島道子氏 ◆会費：5,000円(講演会+観覧会費)

### 中島道子氏略歴

昭和3年福井県で田舎に生まれる。  
大妻女子大学国文学部卒業。教職を経て  
編集活動に入る。  
日本ペンクラブ会員 武蔵歴史フォーラム会長

### 主な作品

- 松平忠直大活躍(平成7年)
- 前田利家とまつ(平成13年10月)
- 松平春信(平成15年10月)
- ほか22冊

■岩佐又兵衛の埼玉県ゆかりの作品  
新巻絵巻「三十六歌仙図」  
埼玉県立博物館所蔵(元川越東照宮所蔵)



錦秋の秋、文化の季節にふさわしい上記の標題  
で、皆様方に感動のひとつときをご提供いたします。  
江戸初期の画家で、母を織田信長によって斬殺さ  
れた岩佐又兵衛(兵庫県伊丹城主荒木村重の息子)  
は、復讐の刀を絵筆に代えて、母への鎮魂の思いを  
「山中常盤絵巻」に仮託し、再現しました。  
長さ12巻(約150メートル)という長大な絵巻物の  
華麗と凄惨は、350年余の年月を経てもなお、皆様  
の感動を揺り動かさずにはおきません。

この「山中常盤絵巻」を、今宵大型スクリーンで  
BGMとともに再現します。ぜひ作家・中島道子氏の  
解説に酔ってください。

ここにご案内申し上げますと共に、知友の皆様方  
をお誘いくださり、ご来館いただくことをお願い申し  
上げます。

主催◆  
民主党・無所属の会  
浦和区事務所(あさのめ事務所)

電話・FAX  
Eメールなどで  
お申込みください。  
チケットをお送り  
いたします。

お申込 キリトリ線

(ご出席 ご欠席 代理) ○でお読み下さい。

ご芳名	ご同伴者
TEL	FAX
ご住所 〒	
メールアドレス	
おひとこと	

事務局からのご案内をお送りさせていただきます。



◆ご意見お待ちしております。  
民主党・無所属の会 浦和区事務所(あさのめ事務所) 〒330-0043 さいたま市浦和区大東1-11-1-501  
TEL 048-883-6560 FAX 048-881-0527 e-mail info@asanome.com